

——沖繩の米軍普天間基地の無条件撤去こそ、一番現実的な解決策——

「近所のみなさん、日本共産党です。」

民主党中心の新しい政権のもとで、国民の暮らし向きはどのようなのか、米軍基地問題はどのようなのか、様々な願いと関心をお持ちではないでしょうか。

日本共産党は、みなさんの願いを実現するために、現実政治を一步でも二歩でも、前に進めるために力を尽くしています。また、願いを実現する上で、障害物となっているのは何なのか、それを明らかにして、その障害物を取り除く政治をめざして、頑張っています。

今日は、今、大きな問題となっている、沖繩の米軍普天間基地撤去問題について、ごいっしょに考えてみたいと思います。しばらくのご協力をよろしくお願いします。また、平和と基地問題について詳しく報道する、「しんぶん赤旗」のご購読も、よろしくお願いします。

みなさん。

米海兵隊の普天間基地は、沖繩の宜野湾市のまん中であって、市の面積の25%を占めるほどの広さを持つ基地です。基地のまわりに、住宅や公共施設、保育施設などがあるにもかかわらず、年間4万5000回以上も、米軍ヘリの危険な離着陸が行われています。

アメリカの安全基準に従えば、絶対にあつてはならないことが、沖繩、宜野湾市で強行されています。戦後六十四年もたっているというのに、轟音(ごうおん)と危険にさらされながら毎日暮らす宜野湾市民と沖繩県民が、米軍基地撤去を求めるのは、当然のことではないでしょうか。

みなさん。

沖繩では、十一月八日、宜野湾市の海浜公園に、二万一〇〇〇人が集まって、県民大会が開かれ、その様子が新聞各紙で報道されました。

この大会は、民主党や社民党、共産党、国民新党などの各党と、労働組合、市民団体など、約百の団体でつুক্তた、実行委員会が主催したものです。共同代表には、元自民党県連幹事長の那覇市長など名を連ね、党派を超えた、県民ぐるみの取り組みでした。

沖繩の、この県民大会は、米軍普天間基地の「即時閉鎖・撤去」と、名護市辺野古への「新基地建設反対」を決議しました。

鳩山内閣は、沖繩県民の切実な願いと意思を受けとめて、アメリカ政府と堂々と交渉するべきではないでしょうか。

みなさん。

日本共産党は、普天間基地のある沖繩県宜野湾市の伊波洋一市長の訪問・要請を受け、懇談するなか、宜野湾市の中心部を占拠する、米海兵隊普天間基地の無条件撤去を求めていくことで、一致しました。アメリカ側は、米海兵隊普天間基地撤去の条件として、名護市辺野古への「移設」、つまり、新基地建設を強硬に要求していますが、これでは問題解決が遠のくばかりです。

日本政府が、「移設」を条件としてきたために、普天間の危険性を延長させてきたというのも大問題です。

伊波・宜野湾市長が強調するように、「移設」先がどうのこうのと関係なく、閉鎖・返還されなければならぬのが、普天間基地ではないでしょうか。

米軍普天間基地の無条件撤去・返還こそ、一番現実的な解決策です。——この声を、ごいっしょに広げていこうではありませんか。

「近所のみなさん。」

沖繩県宜野湾市の米軍普天間基地の撤去問題について、鳩山首相と、岡田外務大臣、北沢防衛大臣の見解が異なり、方針を二転三転させ、動揺を繰り返すのは、なぜでしょうか。

それは、鳩山内閣が、沖繩県民の世論は無視できないが、「日米安保があるから」と、アメリカ政府にも「いい顔」をしようとするからではないでしょうか。また、「米軍基地によって日本の平和が守られている」という、間違った立場にたっているからではないでしょうか。

在日米軍基地に配備されているのは、日本の防衛とは関係のない、干渉と介入が専門の「殴りこみ」部隊が中心です。沖繩には、海兵遠征軍が配備されています。こういう国は、世界で日本だけです。

在日米軍基地から、イラクやアフガンの戦争に、米兵が送り出されています。基地被害も深刻です。日本共産党は、日米安保条約を廃棄して、アメリカとは対等平等の、平和友好条約をめざしています

が、今日の時点で、少なくとも、米軍基地の縮小・撤去で、多くのみなさんと一致できるのではないのでしょうか。普天間基地の無条件撤去は、その試金石です。力を合わせようではありませんか。